

このまちでいきっていく



大牟田市新栄町商店街

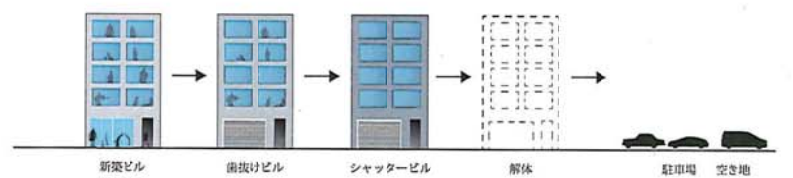
街の個性でもある商店街、そこはコミュニティ形成の場所でもあり、何ともいえない愛着の場所であったはず。経済的な理論が優先されるべきか、地域のコミュニティの場として存続が優先されるべきか。今現在、シャッター通りと呼ばれる中心市街地などの一つ、大牟田にある新栄町商店街を敷地に選定しました。この場所は、福岡県の最南端に位置し、かつては石炭化学工業で栄え、新栄町商店街が形成されたりした。しかしエネルギー革命などにより衰退し、空洞化が進みました。また、2000年代から2010年代にかけて、当駅周辺でマンションの建設が相次ぎました。この結果、商店街の空き家率は上昇し、今ではほとんどが空き家となりました。もし、こういった状態を受け止めるならば経済減退や限界集落と伝統の絶滅を同時に受け止める必要がある。そういった時代の中で既に元気のない地方は賑わいを取り戻す事は非現実的であり、住宅ストック問題が叫ばれている中で更なるマンションなどの投資目

敷地



商店街と新栄町における問題

商店街の空き家問題



空き家問題の現状

現状

近年、空き家の増加が問題となっている。老朽化した空き家が放置されると、倒壊の危険や犯罪の誘発など、周囲に悪影響を及ぼすことが危惧される。そのため、国や地方自治体は、空き家の所有者にその適切な管理や撤去を促す取組を行っている。

新栄町の空き家→貸貸用・売却用を含まない管理が不十分な「その他の空き家」を主な対象。

空き家の増加がもたらす問題

- 治安の低下や犯罪の発生
- 安全性の低下
- 不法投棄の誘発
- 地域のイメージ低下
- 景観の悪化
- 雑草繁茂
- 空き家が放火される事件
- 老朽家屋の外壁が道路に落下

空き家が増加する原因

- 居住者の死亡や転居
- 相続人が居住しないこと
- 不法投棄の誘発
- 買い手や借り手が見つかる見込みがない
- 戦後の我が国の人口移動と総住宅数の増加

撤去が進まない原因

- 相続を契機に管理責任が不明になる場合
- 所有者との連絡が取れなくなった場合

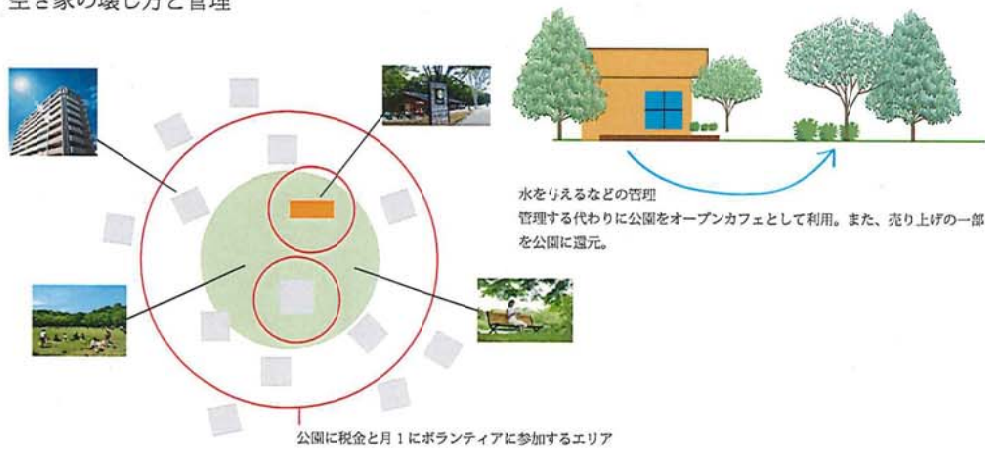
都市の砂漠化





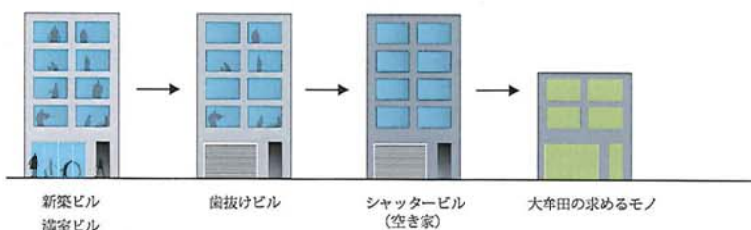
空き家問題の対策

空き家の壊し方と管理

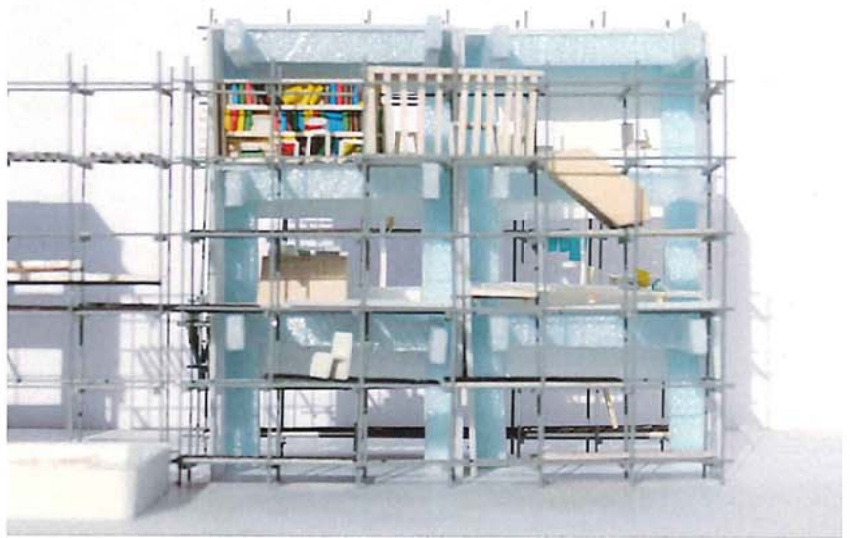


跡地の寄贈を条件に、市が施工主体となり全額公費を用いて空き家の撤去を行う。寄贈された土地は、広場や駐輪場、公衆トイレとして活用されている。

新築商店街の場合はオーナーが管理しているのでオーナーでこの対策を行うかを判断。空き家ももたらす問題を抱えるリスクを考えれば敷地を寄贈の方が良いのではないかと。



現在は空き家ができたら放置したり、壊して一時的に駐車場や空き地にしています。しかし、そういった所には人がいないので、それを使用している人は少なくそういった物が広がり都市の砂漠化へとつながります。



大牟田市が求めるモノとは...

自然と調和した行動をする
人が環境について学び、行動しやすい町の雰囲気をつくる
目指す環境 発想、そして工夫みんなで創る環境都市

循環型社会の実現	低炭素社会の実現	みんなで創る環境都市の実現	自然共生社会の実現
緑地・里山の保全	地球温暖化対策	リサイクルの推進と廃棄物対策	景観の保全
水辺の保全	(温室効果ガスの低下)		歴史・文化遺産の保護
生態系の保全			環境保全活動の輪づくり

大牟田市 + 環境 (緑) = 豊かな町 (大牟田市が求めるもの)
新築町 新築町

提案

空き家の問題と新築町商店街の問題

壊しながら使う (町に必要なデザインと環境を変えていく)

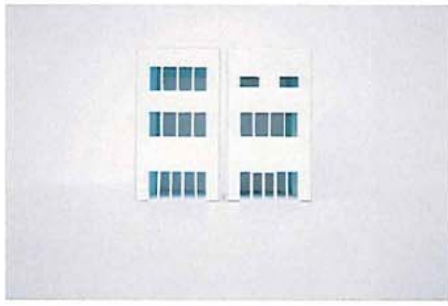
壊しながら使うデザイン

一時的というよりは持続的に使える足場を形成し空間や動線を増やし、建物の不必要、変えていきたいところを引き算し、必要なものを足し算し社会や環境の変化に対応できるものに変えていく。

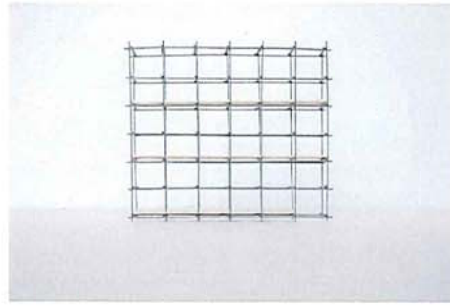
環境を変えていく

大牟田市や新築町に住んでいる人が必要としている自然などを足場で建物を壊し造っていく。例えば田んぼをつくる時に空き家の基礎だけをのこし壊していきます。その基礎に田んぼをつくることができます。

足場



空き家



足場

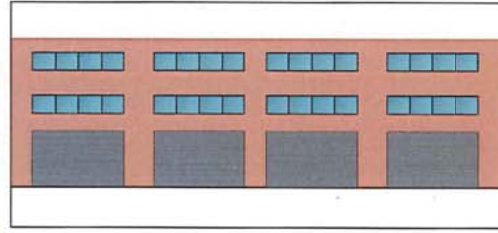


足場を形成

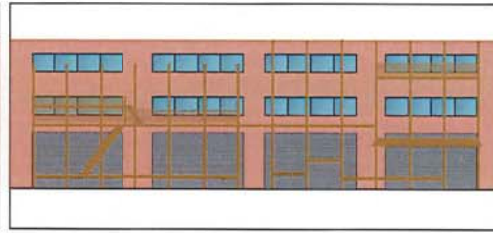


屋根や床を造る

例)



使用されていない空き家



足場を形成していく



建物を壊し空間、自然を形成

壊しながら使うデザイン 環境を変えていく



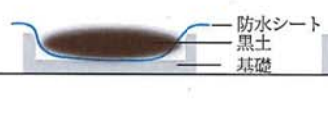
シャッタービル

建物はヒントを元に壊していきます。そのヒントとは建物に残っているインフラ（水道、ガス、電気）や構造（屋根、床、柱、梁、基礎）などです。

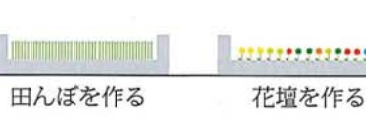
ヒント→基礎



基礎だけを残す



田んぼを作る



花壇を作る



足場などで起きてくる風景



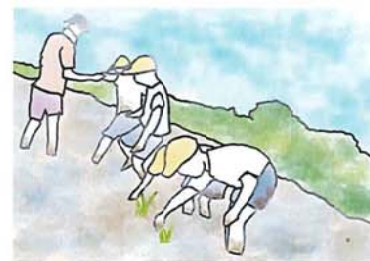
作って食べる



自然を楽しむ



イベント



農業体験



展示会



育てる



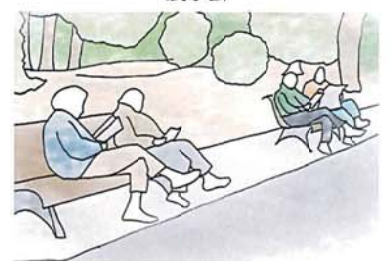
遠足



散歩



いどばた会議



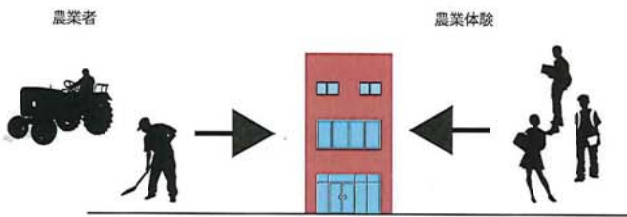
読書

計画

A 使われていない空き家

農業者や農業体験に来た人の休憩場所

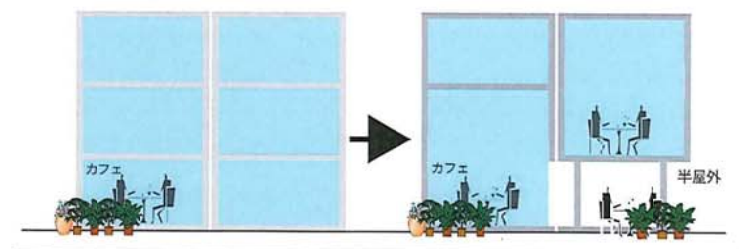
農業者や農業体験に来た人が休んだりする事ができる場所。インフラ（水道、ガス、電気）などが残っているので昼ごはん時に料理をしたり、昼寝や話をしたり交流の場所になる。



B 経営をしている店舗

カフェ

商店街に人がいないのに、お店の周りを少しでも明るくしようと、花を置いたりしているカフェ。そういった人のために空き家を開放しカフェ以外にも何かできるようにする。



C 人の形跡

この場所でできた野菜やお米などを売る場所

今現在、この場所にはシャッターの前で野菜などを売りに来ている人たちがいる。そして、それを買いに来る人がいる。それならば、そういった人たちのためにその場所を開放した方が良くはないか。そしてこの町には、祭りや出店をやる習慣があるので空き家を使って、そういったイベントを行う。



D 使われていない空き地

地域住民の庭

空き地を小さく区画に分割し、周りに住んでいるアパートやマンションに住んでいる人や近くにある保育園の庭のように管理意識を持って、例えば花壇をつかったり、家庭菜園をしたりドッグランを試みたりする。そうすることにより、地域住民との交流が生まれる。

